



Sun SPARC® Enterprise M8000/M9000 サーバ プロダクトノート

XCP 1041 版

Sun Microsystems, Inc.
www.sun.com

Part No. 820-2447-10
2007 年 5 月, Revision A

Submit comments about this document at: <http://www.sun.com/hwdocs/feedback>

Copyright 2007 Sun Microsystems, Inc., 4150 Network Circle, Santa Clara, California 95054, U.S.A. および富士通株式会社 〒 211-8588 神奈川県川崎市中原区上小田中 4-1-1, Japan. All rights reserved.

Sun Microsystems, Inc. および富士通株式会社は、それぞれ本書に記述されている製品および技術に関する知的所有権を所有または管理しています。これらの製品、技術、および本書は、著作権法、特許権などの知的所有権に関する法律および国際条約により保護されています。これらの製品、技術、および本書に対して Sun Microsystems, Inc. および富士通株式会社が有する知的所有権には、<http://www.sun.com/patents> に掲載されているひとつまたは複数の米国特許、および米国ならびにその他の国におけるひとつまたは複数の特許または出願中の特許が含まれています。

本書およびそれに付随する製品および技術は、その使用、複製、頒布および逆コンパイルを制限するライセンスのもとにおいて頒布されます。富士通株式会社と Sun Microsystems, Inc. およびそのライセンサーの書面による事前の許可なく、このような製品または技術および本書のいかなる部分も、いかなる方法によっても複製することが禁じられます。本書の提供は、明示的であるか黙示的であるかを問わず、本製品またはそれに付随する技術に関するいかなる権利またはライセンスを付与するものでもありません。本書は、富士通株式会社または Sun Microsystems, Inc. の一部、あるいはそのいずれかの関連会社のいかなる種類の義務を含むものでも示すものでもありません。

本書および本書に記述されている製品および技術には、ソフトウェアおよびフォント技術を含む第三者の知的財産が含まれている場合があります。これらの知的財産は、著作権法により保護されているか、または提供者から富士通株式会社および/または Sun Microsystems, Inc. へライセンスが付与されているか、あるいはその両方です。

GPL または LGPL が適用されたソースコードの複製は、GPL または LGPL の規約に従い、該当する場合に、お客様からのお申し込みに応じて入手可能です。富士通株式会社または Sun Microsystems, Inc. にお問い合わせください。

この配布には、第三者が開発した構成要素が含まれている可能性があります。

本製品の一部は、カリフォルニア大学からライセンスされている Berkeley BSD システムに由来しています。UNIX は、X/Open Company Limited が独占的にライセンスしている米国ならびに他の国における登録商標です。

Sun、Sun Microsystems、Sun のロゴ、Java、Netra、Solaris、Sun Ray、Answerbook2、docs.sun.com、OpenBoot、および Sun Fire は、米国およびその他の国における Sun Microsystems, Inc. の商標または登録商標です。

富士通および富士通のロゴマークは、富士通株式会社の登録商標です。

すべての SPARC 商標は、SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用している同社の米国およびその他の国における登録商標です。SPARC 商標が付いた製品は、Sun Microsystems, Inc. が開発したアーキテクチャーに基づくものです。

SPARC64 は、Fujitsu Microelectronics, Inc. および富士通株式会社が SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用している同社の商標です。

OPEN LOOK および Sun™ Graphical User Interface は、Sun Microsystems, Inc. が自社のユーザーおよびライセンス実施権者向けに開発しました。Sun Microsystems, Inc. は、コンピュータ産業用のビジュアルまたはグラフィカル・ユーザー



Please
Recycle



Adobe PostScript

インタフェースの概念の研究開発における Xerox 社の先駆者としての成果を認めるものです。Sun Microsystems, Inc. は Xerox 社から Xerox Graphical User Interface の非独占的ライセンスを取得しており、このライセンスは、OPEN LOOK GUI を実装しているかまたは Sun の書面によるライセンス契約を満たす Sun Microsystems, Inc. のライセンス実施権者にも適用されます。

United States Government Rights - Commercial use. U.S. Government users are subject to the standard government user license agreements of Sun Microsystems, Inc. and Fujitsu Limited and the applicable provisions of the FAR and its supplements.

免責条項：本書または本書に記述されている製品や技術に関して富士通株式会社、Sun Microsystems, Inc. またはそのいずれかの関連会社が行う保証は、製品または技術の提供に適用されるライセンス契約で明示的に規定されている保証に限ります。このような契約で明示的に規定された保証を除き、富士通株式会社、Sun Microsystems, Inc. およびそのいずれかの関連会社は、製品、技術、または本書に関して、明示、黙示を問わず、いかなる種類の保証も行いません。これらの製品、技術、または本書は、現状のまま提供され、商品性、特定目的への適合性または第三者の権利の非侵害の黙示の保証を含みそれに限定されない、明示的であるか黙示的であるかを問わない、なんらの保証も、かかる免責が法的に無効とされた場合を除き、行われないものとします。このような契約で明示的に規定されていないかぎり、富士通株式会社、Sun Microsystems, Inc. またはそのいずれかの関連会社は、いかなる法理論のもと第三者に対しても、その収益の損失、有用性またはデータに関する損失、あるいは業務の中断について、あるいは間接的損害、特別損害、付随的損害、または結果的損害について、そのような損害の可能性が示唆されていた場合であっても、適用される法律が許容する範囲内で、いかなる責任も負いません。

本書は、「現状のまま」提供され、商品性、特定目的への適合性または第三者の権利の非侵害の黙示の保証を含みそれに限定されない、明示的であるか黙示的であるかを問わない、なんらの保証も、かかる免責が法的に無効とされた場合を除き、行われないものとします。

目次

はじめに	vii
テクニカルサポート	vii
ソフトウェアリソース	vii
最新パッチの入手方法	viii
smpatch CLI を使用してパッチを入手	viii
Update Manager GUI を使用してパッチを入手	x
追加情報	xi
ドキュメントの利用について	xii
コメントの送付先	xii
SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバ プロダクトノート	1
サポートされているファームウェアおよびソフトウェアのバージョン	1
Solaris パッチ情報	2
既知の問題	3
一般的な機能の問題と制限	3
XSCFU 二重化機能に伴う留意事項	5
ハードウェアのインストレーションおよびサービスに関する問題	6
問題と回避方法	6
ハードウェアドキュメントの変更予定	7
拡張筐体付きシステムの電源投入／切断の手順	8

ソフトウェアおよびファームウェアに関する問題	9
XCP に関する問題と回避方法	9
Solaris の問題と回避方法	11
ターゲットボードのカーネルメモリの識別	14
WAN ブートサーバからのブート	15
getflashimage の簡易版 man page	15
概要	15
説明	16
オプションとオペランド	16
例	16
ソフトウェアドキュメントの変更予定	18

はじめに

このプロダクトノートには、ドキュメントが出版された後に知られるようになった、Sun SPARC® Enterprise M8000/M9000 サーバのハードウェア、ソフトウェア、およびドキュメントに関する重要な最新情報が記載されています。

テクニカルサポート

Sun SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバのドキュメントに記載されていない技術的な質問や問題がある場合は、お近くの Sun™ サービス担当員にお問い合わせください。

米国またはカナダのお客様は、1-800-USA-4SUN (1-800-872-4786) にお電話ください。その他の地域のお客様は、次の Web サイトで、最も近い World Wide Solution Center をお探してください。

<http://www.sun.com/service/contacting/solution.html/>

ソフトウェアリソース

SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバには、Solaris™ Operating System および Sun Java™ Enterprise System ソフトウェアがプレインストールされています。

最新パッチの入手方法

Sun SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバの必須 Solaris パッチは、システムにブレイクインストールされています。パッチの一覧については、「[Solaris パッチ情報](#)」(P.2)を参照してください。

Sun Connection Update Manager を使用して、必要に応じてパッチを再インストールするか、または最新の必須パッチのセットでシステムを更新することができます。

Sun Connection Update Manager に関する情報は、次の Web サイトにある『[Sun Update Connection System 1.0.8 Administration Guide](#)』に記載されています。

<http://docs.sun.com/app/docs/doc/819-4687>

最新の Solaris OS パッチを入手するには、次の手順に従ってシステムを登録し、Sun Connection Update Manager を使用します。

インストール情報と README ファイルは、パッチのダウンロードに含まれています。

注 – Sun Connection Update Manager を使用する前に、パッチ 123003-03 および 124171-06 をシステムにインストールする必要があります。これらのパッチは、必要に応じて <http://sunsolve.sun.com/> からダウンロードできます。

パッチの入手方法には次の 2 つのオプションがあります。

- 「[smpatch CLI を使用してパッチを入手](#)」(P.viii)
- 「[Update Manager GUI を使用してパッチを入手](#)」(P.x)

smpatch CLI を使用してパッチを入手

1. ファイル `/usr/lib/breg/data/RegistrationProfile.properties` を `/tmp` ディレクトリにコピーします。
2. ユーザー名、パスワード、および必要に応じてネットワークプロキシを追加するように、ファイル `/tmp/RegistrationProfile.properties` を編集します。
3. 次のコマンドを入力し、システムを登録します。

```
# sconadm register -a -r /tmp/RegistrationProfile.properties
```

4. 次のコマンドを入力し、システムの正しいパッチを入手します。

```
# smpatch set patchpro.patchset=semxxxxxxxxx
```


5. 次の手順に従って、各パッチをインストールします。

パッチは、Sun Connection Update Manager でダウンロードできます。

- a. 次のように入力し、パッチを `/var/sadm/spool` ディレクトリにダウンロードします。

```
# smpatch update -i xxxxxx-xx
```

- b. パッチを解凍するには、次のように入力します。

```
# cd /var/sadm/spool
# unzip xxxxxx-xx.jar
```

- c. ファイル `/var/sadm/spool/xxxxxx-xx/README.xxxxxx-xx` に示されている特別なインストール手順に従って、パッチをインストールします。

6. パッチをインストールした後、システムの再起動が必要になることがあります。

注 - `init` コマンドまたは `shutdown` コマンドを使用します。 `reboot` コマンドでは、再起動が必要なパッチのインストールは完了しません。

```
# init 6
```

```
# shutdown -i6
```

7. 次のコマンドを入力し、インストールするパッチの一覧を表示します。

```
# smpatch analyse
```

8. 次のコマンドを入力し、パッチをダウンロードしてインストールします。

```
# smpatch update
```

9. パッチのいずれかでシステムの再起動を求められた場合は、[ステップ 6](#) を参照してください。

これでパッチのインストールは完了しました。

Update Manager GUI を使用してパッチを入手

1. ファイル `/usr/lib/breg/data/RegistrationProfile.properties` を `/tmp` ディレクトリにコピーします。
2. ユーザー名、パスワード、および必要に応じてネットワークプロキシを追加するように、ファイル `/tmp/RegistrationProfile.properties` を編集します。
3. 次のコマンドを入力し、システムを登録します。

```
# sconadm register -a -r /tmp/RegistrationProfile.properties
```

4. Update Manager を起動します。

```
# /usr/bin/updatemanager
```

5. Update Manager の Available タブで、ドロップダウンメニューを開き、Update Collection から Sun SPARC® Enterprise M4000/M5000/M8000/M9000 Servers を選択します。

Update Manager は、必要なパッチがあるかどうか、システムを分析します。

6. パッチ `xxxxxx-xx` が推奨される場合、パッチ ID の左側にあるボックスをクリックしてこのパッチを選択し、Install ボタンをクリックします。

パッチは `/var/sadm/spool` にダウンロードされます。

7. 引き続き、次のように入力します。

```
# cd /var/sadm/spool
# unzip xxxxxx-xx.jar
```

8. ファイル `/var/sadm/spool/xxxxxx-xx/README.xxxxxx-xx` に示されているインストール手順を実行します。
9. `xxxxxx-xx` をインストールした後、システムの再起動が必要になることがあります。

Update Manager の指示に従って再起動するか、あるいは次のように shutdown コマンドまたは init コマンドを使用します。

```
# init 6
```

```
# shutdown -i6
```

注 – Update Manager、init コマンド、または shutdown コマンドを使用します。reboot コマンドでは、再起動が必要なパッチのインストールは完了しません。

10. 再び Update Manager を起動して、Enterprise Server コレクションを選択します。
11. Update Manager で新しい分析が自動的に開始されない場合は、Check for Updates ボタンをクリックします。
12. パッチの一覧で、パッチ ID の左側にあるボックスをオンにしてパッチを選択します。
13. Install ボタンをクリックします。
Update Manager は、パッチをダウンロードしてインストールします。
14. パッチのいずれかでシステムの再起動が求められた場合は、[ステップ 9](#) を参照してください。

これでパッチのインストールは完了しました。

追加情報

追加情報については、Solaris ドキュメントに付属のリリースノート、および最新の『Solaris 10 Sun Hardware Platform Guide』を参照してください。また、このマニュアルに追加の補足がないかどうか、ドキュメント Web ページを確認してください。最新情報は、次の Web サイトに掲示されます。

<http://www.sun.com/documentation/>

ドキュメントの利用について

Sun SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバを増設、管理、および使用する手順は、Sun SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバのドキュメントで説明しています。ドキュメントセット一式は、次の Web サイトからダウンロードできます。

<http://www.sun.com/documentation/>

注 - これらのプロダクトノート情報は、Sun SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバのドキュメントの情報に優先します。

Solaris Operating System (Solaris OS) のドキュメントは、次の場所にあります。

<http://www.sun.com/documentation/>

コメントの送付先

Sun はドキュメントの品質向上に関心があり、お客様のコメントや提案を歓迎しています。次の URL からコメントを投稿できます。

<http://www.sun.com/hwdocs/feedback/>

フィードバックには、次のドキュメントタイトルと Part No. も記載してください。

Sun SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバプロダクトノート XCP 1041 版、
Part No. 820-2447-10

SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバプロダクトノート

本書は、次の項で構成されています。

- サポートされているファームウェアおよびソフトウェアのバージョン
- Solaris パッチ情報
- 既知の問題
- XSCFU 二重化機能に伴う留意事項
- ハードウェアのインストレーションおよびサービスに関する問題
- ハードウェアドキュメントの変更予定
- ソフトウェアおよびファームウェアに関する問題
- ソフトウェアドキュメントの変更予定

サポートされているファームウェアおよびソフトウェアのバージョン

本リリースでは、次のファームウェアとソフトウェアのバージョンがサポートされています。

- サーバには、XSCF Control Package (XCP) 1041 以降がプレインストールされています。
- これらのサーバをサポートしている Solaris OS は、Solaris 10 11/06 OS 以降です。



注意 - CR ID 6534471 : 通常の操作中に、システムがパニックまたはトラップすることがあります。CR ID 6534471 の回避方法を実行するか、またはパッチが入手可能かどうかを確認し、パッチをただちにインストールしてください。この CR は、「[Solaris の問題と回避方法](#)」(P.11) の項に示されています。

- XCP 1041 は、Capacity on Demand (COD) をサポートします。
- XCP 1041 は、Sun PCI ボックスをサポートします。

ネットワーク上の Solaris WAN ブートサーバから SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバをブートする場合は、実行可能ファイル wanboot をアップグレードする必要があります。詳細については、「[WAN ブートサーバからのブート](#)」(P.15) を参照してください。

注 - サポートされているファームウェアとソフトウェアのバージョンに関する最新情報については、「[ソフトウェアリソース](#)」(P.vii) を参照してください。

Solaris パッチ情報

次に示すパッチは、SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバに必須です。

注 - 次に記載する各パッチ ID には、2 桁のサフィックスで示されるリビジョンレベルが含まれます。最新パッチリビジョンがあるかどうか、[SunSolve.Sun.COM](#) を確認してください。最新パッチを探す方法については、「[ソフトウェアリソース](#)」(P.vii) を参照してください。

次の順序でパッチをインストールします。

■ 118833-36

パッチ 118833-36 をインストールした後、ドメインをリブートしてから次へ進みます。

■ 125100-08

少なくともバージョン 125100-08 はインストールします。その他のパッチ要件の一覧については、125100-08 README ファイルを参照してください。

■ 123839-07

■ 120068-03

■ 125424-01

■ 118918-24

■ 124208-01

■ 120222-18

■ 125127-01

パッチ 125127-01 をインストールした後、ドメインをリブートしてから次へ進みます。

既知の問題

この項では、本リリースにおける既知のハードウェアおよびソフトウェアの問題について説明します。

一般的な機能の問題と制限

- Dynamic Reconfiguration (DR) コマンドの `addboard`、`deleteboard`、および `moveboard` は次に示す場合に使用が制限されるので、DR はこれらの場合には推奨されません。
 - オプション I/O カードを搭載したターゲットボード (SB/XSB)
 - カーネルメモリを搭載したターゲットボード (SB/XSB)
「ターゲットボードのカーネルメモリの識別」(P.14) を参照してください。



注意 - サポートされていない構成で DR を使用すると、ドメインがパニックしたり、システムがハングする場合があります。

- ZFS ファイルシステムを使用しているドメインは、DR を行うことができません。
- SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバでは、eXtended System Control Facility (XSCF) ユニット (サービスプロセッサ) の二重化はサポートされません。
- CD-RW/DVD-RW ドライブユニットとテープドライブユニットは、同時に使用しないでください。
- `cfgadm (1M)` コマンドを使用して、ドメイン内の CD-RW/DVD-RW ユニットおよび (または) テープドライブユニットを追加または削除しないでください。ドメインで Solaris OS を起動する前に、`cfgdevice (8)` コマンドを使用して、CD-RW/DVD-RW ドライブユニットおよび (または) テープドライブユニットをドメインに接続します。
- XSCF Web ブラウザインターフェース (BUI と呼ばれます) は、本リリースでは機能の一部のみを使用できます。使用可能になっているのは、XSCF ファームウェアのインポートおよび `snapshot` の Full ログセットの採取機能のみです。これ以外の操作には、サービスプロセッサおよびドメインでコマンドラインインターフェース (CLI) を使用してください。
- 各ドメインで、次のカードを 3 枚以上 (または組み合わせて 3 枚以上) 使用することはできません。
 - 4447A-Z/X4447A-Z, PCIe Quad-port Gigabit Ethernet Adapter UTP
 - 1027A-Z/X1027A-Z, PCIe Dual 10 Gigabit Ethernet Fiber XFP
- XSCF ユニットのホットプラグはサポートされていません。

- PCI Hot-Plug (PHP) は、本リリースでは使用できません。追加情報およびソフトウェアサポートについては、テクニカルサポートまたは販売担当員に確認してください。
- XCP ファームウェアをアップグレードする前に、すべてのドメインの電源を切断してください。
- 単一のドメイン内の IOUA カードの最大数は 6 枚です。単一ドメインで構成されている SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバには、6 枚を超える IOUA カードは増設しないでください。

XSCFU二重化機能に伴う留意事項

XSCFUの二重化機能がサポートされるまでのあいだ、ドキュメントの記述と実際の動作で以下の点が異なります。

- 基本筐体用XSCFユニット#1(XSCFU_B#1)および拡張筐体用XSCFユニット#1(XSCFU_C#1)のREADY LEDが点滅を続け、点灯に変化しません。
- 基本筐体用XSCFユニット#1(XSCFU_B#1)には、シリアルケーブル、LANのいずれを使用してもログインすることができません。
- XSCFのshowhardconf(8)を使用した場合、基本筐体用XSCFユニット#1(XSCFU_B#1) および拡張筐体用XSCFユニット#1 (XSCFU_C#1)に関して、以下のように表示されます。
XSCFU_B#1 Status:Normal,Offline; Ver:0000h; Serial;;
+ FRU-Part-Number;;
XSCFU_C#1 Status:Normal,Offline; Ver:0000h; Serial;;
+ FRU-Part-Number;;
- XSCFのswitchscf(8)は以下のメッセージを表示して異常終了します。
"XSCF cannot be switched because the other XSCF is not available."
- XSCFのapplynetwork(8)使用時、以下のメッセージが表示されますが、無視しても差し支えありません。
"The other XSCF could not apply the network settings."
- XSCFの次のコマンドを使用した場合、"Cannot communicate with the other XSCF. Check the other XSCF's state."というメッセージが表示されますが、無視しても差し支えありません。
対象となるコマンド:showhostname(8), setssh(8), settelnet(8), setntp(8), sethttps(8)

ハードウェアのインストレーションおよびサービスに関する問題

この項では、ハードウェア固有の問題とその回避方法について説明します。

問題と回避方法

表 1 に既知のハードウェアの問題と実行可能な回避方法を示します。

表 1 特定の問題と回避方法

CR ID	説明	回避方法
6433420	ブート中、ドメインコンソールがMailbox timeoutまたはIOCB interrupt timeout errorを表示することがあります。	OBP (OK)プロンプトからreset-allコマンドを発行し、リポートしてください。
6488846	ブート中、ドメインコンソールがSG(X)PCI2SCSIU320-Z SCSIコントローラI/Oカードのchecksum errorを表示することがあります。	最新のコントローラカードファームウェアが提供されているかご確認ください。

ハードウェアドキュメントの変更予定

この項では、ドキュメントが出版された後に知られるようになった、ハードウェアの最新情報を示します。

表 2 ドキュメントの変更予定

タイトル	ページ番号	変更内容
SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバのすべてのドキュメント		DVD という表記は、CD-RW/DVD-RW と読み替えてください。
SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバ サービスマニュアル	4-16	第 4.7 項 (M9000 拡張筐体付きで二系統受電の場合の電源投入・切断順序) で、手順が変更されました。 「 拡張筐体付きシステムの電源投入/切断の手順 (P.8) 」を参照してください。
SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバ サービスマニュアル	20-9	第 20.2.1 項 (バックプレーンの停止交換) で、トルクを設定する手順が変更されました。 「電源バーを取り付ける場合、ねじサイズに合わせて、下記トルク値で行ってください。 M8 ボルトの場合、8.24 N.m (82 kgf.cm) のトルクを使用します。 M6 ボルトの場合、3.73 N.m (38 kgf.cm) のトルクを使用します」
SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバ サービスマニュアル	21-1	第 21.1 項 (センサーユニットの交換) で、図の説明が変更されました。 「 図 21.1 、 図 21.2 、および 図 21.3 は、それぞれ SPARC Enterprise M8000 サーバ、SPARC Enterprise M9000 サーバ (基本筐体)、および拡張筐体付き SPARC Enterprise M9000 サーバの基本筐体側のみのセンサーユニットの搭載位置を示します。」

注 - 次の情報は、『SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバサービスマニュアル』の
情報に優先します。

拡張筐体付きシステムの電源投入／切断の手順

ここでは、『SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバ サービスマニュアル』の4-16ページ「4.7 M9000 拡張筐体付きで二系統受電の場合の電源投入・切断順序」を訂正します。

拡張筐体付きシステムの場合、メインラインスイッチを投入または切断するときには、必ず以下の順序で行います。

・電源投入

1. 拡張筐体のメインラインスイッチをすべて投入します。

二系統受電用に電源筐体が接続されている場合は、そのメインラインスイッチもすべて投入します。

2. 基本筐体のメインラインスイッチをすべて投入します。

二系統受電用に電源筐体が接続されている場合は、そのメインラインスイッチもすべて投入します。

・電源切断

1. 基本筐体のメインラインスイッチをすべて切断します。

二系統受電用に電源筐体が接続されている場合は、そのメインラインスイッチもすべて切断します。

2. 拡張筐体のメインラインスイッチをすべて切断します。

二系統受電用に電源筐体が接続されている場合は、そのメインラインスイッチもすべて切断します。

ソフトウェアおよびファームウェアに関する問題

この項では、特定のソフトウェアとファームウェアの問題とその回避方法について説明します。

XCP に関する問題と回避方法

表 3 に XCP の問題と実行可能な回避方法を示します。

表 3 XCP に関する問題と回避方法

CR ID	説明	回避方法
6486286	ドメインコンソールの接続を切断したとき、シェルがキャンセルされません。	コンソールの接続を終了する前に、必ず Solaris OS からログアウトします。 誤ってログアウトせずにドメインコンソールを切断した場合は、次の手順に従ってください。 <ul style="list-style-type: none">• 再びドメインコンソールにログインします。• ログアウトします。• コンソールの接続を終了します。
6519877	XCP ファームウェアをアップグレードする場合は、ドメインの電源が切れている必要があります。	flashupdate コマンドを実行する前に、ドメインの電源を切ってください。
6521896	ブート中の SCF にログインすると、XSCF>プロンプトの代わりに bash\$ プロンプトを取得し、ほとんどの操作を実行できなくなることがあります。	bash\$ プロンプトをログアウトし、SCF がブートを完了するまで待ってください。
6526186	IOU オンボードデバイスカード (IOUA) のホットプラグは、現時点でサポートされていません。	回避方法はありません。この機能に対するパッチが入手可能かどうか確認してください。
6529635	showdomainstatus -a コマンドではドメインステータスが Powered Off と表示されますが、showboards -a コマンドではドメインがテスト中と表示されます。	showboards コマンドを使用して、システム電源のステータスを確認してください。 showdomainstatus コマンドでは、正しいステータスを表示するのに、より時間がかかります。
6532036	コンフィギュレーションデータをアップデートするコマンドに、実行に比較的長い時間を要するものがあります。	set* コマンドをキャンセルしないでください。これらのコマンドはハングしたように見えますが、最終的には約 30 秒以内に完了します。

表 3 XCP に関する問題と回避方法 (続き)

CR ID	説明	回避方法
6533158	障害 (memory.block.ue) が周期的に見つかり、報告されます。	あるDIMMの中にuncorrectable error が存在しており、このDIMMは交換されるべきです。
6537345	XSCF Web を使用してファームウェアイメージをインポートするときにイメージが破損している (たとえばインポート中にブラウザウィンドウが閉じている) 場合、後に flashupdate コマンドで内部エラーが報告されることがあります。CR ID 6537996 も同様です。	コマンド getflashimage -d を使用し、破損したイメージを削除します。必要に応じて、XSCF ユニットのリブートしてから、再度 flashupdate コマンドを使用して内部エラーをクリアします。
6538022	XSCF ファームウェアは自らを監視し、不整合が検出されると強制的にリブートします。	回避方法はありません。XSCF ユニットのリブートを完了させます。約 5 分以内に通常の操作に戻ります。
6538564	rebootxscfを使用すると、process down errorになることがあり、これはMSG ID SCF-8005-NEのFMA eventの可能性がります。	回避方法はありません。この不具合に対するパッチが入手可能かどうか確認してください。
6543260	showaudit all コマンドが、データベースのクリア後、policy sectionにdefaultsの長いリストを表示します。	以下の設定で、データベースをアップデートしてください: setaudit -a opl=enable setaudit -a opl=default

Solaris の問題と回避方法

表 4 に Solaris の問題と実行可能な回避方法を示します。

表 4 Solaris の問題と回避方法

CR ID	説明	回避方法
6303418	SPARC Enterprise M9000 において、1ドメインあたりの CPUスレッド数が170を超えた場合、ハングアップする場合があります。	170CPUスレッドを超えないようにしてください。 Solaris OS のpsradm(1M)コマンドを使用して余分なCPUスレッドをオフラインし、CPUスレッドの数を1CPUコアあたり1つに制限してください。 例えば、すべての奇数の CPU スレッドをオフラインにするなどです。
6459540	DAT72 内蔵テープドライブがテープの処理中にタイムアウトすることがあります。 またデバイスは、システムに QIC ドライブとして識別されることもあります。	Solaris の /kernel/drv/st.conf ファイルを次のように更新してください。 <pre>tape-config-list = "QUANTUM DAT DAT72-00", "QUANTUM DAT DAT72- 00", "CFGQUANTUMDATDAT7200", "SEAGATE DAT DAT72-00", "SEAGATE DAT DAT72-00", "CFGSEAGATEDAT7200"; CFGQUANTUMDATDAT7200 = 2,0x34,0,0x18619,4,0x47,0x47,0x47,0 x47,3,0,600,600,600,600,600,10800; CFGSEAGATEDAT7200 = 2,0x34,0,0x18619,4,0x47,0x47,0x47,0 x47,3,0,600,600,600,600,600,10800;</pre>
6472153	SPARC Enterprise Mx000 サーバ以外のサーバ上にSolarisのinstall imageまたはboot imageを作成し、それをSPARC Enterprise Mx000 サーバ上で使用すると、コンソールのTTYフラグが正しく設定されません。これは、コンソールのハングを引き起こすことがあります。	SPARC Enterprise Mx000 サーバにtelnetで入り、コンソールのTTYフラグを以下のようにリセットしてください: <pre># sttydefs -r console # sttydefs -a console -i "9600 hupcl opost onlcr crtscts" -f "9600"</pre>
6485555	レースコンディションにより、オンボードのGigabit Ethernet NVRAM に障害が発生します。	NVRAM に障害が発生している場合、デバイスはネットワークデバイスとして認識されません。サービス担当員に問い合わせ、FRU を交換してください。

表 4 Solaris の問題と回避方法 (続き)

CR ID	説明	回避方法
6498283	ドメインで psradm 操作の実行中に、DR コマンド deleteboard を使用すると、システムパニックが発生することがあります。	回避方法はありません。この不具合に対するパッチが入手可能かどうか確認してください。
6505921	システム PCIe バスコントローラの修正可能なエラーによって、無効な障害が発生します。	次の行を含むファイル /etc/fm/fmd/fmd.conf を作成してください。 setprop client.buflim 40m setprop client.memlim 40m
6508432	PCIe の偽の修正可能なエラーが FMA エラーログに多数記録されることがあります。	この問題を回避するには、次のエントリを /etc/system に追加します。 set pcie:pcie_aer_ce_mask = 0x31c1
6510779	大規模シングルドメイン構成上、システムが誤って非常に高い負荷平均を報告することがあります。	回避方法はありません。この不具合に対するパッチが入手可能かどうか確認してください。
6510861	PCIe Dual-Port Ultra320 SCSI コントローラカード (SG- (X) PCIE2SCSIU320Z) を使用しているとき、PCIe の修正可能なエラーによって Solaris のパニックが発生します。	この問題を回避するには、次のエントリを /etc/system に追加してください。 set pcie:pcie_aer_ce_mask = 0x31c1
6522017	ZFS ファイルシステムを使用しているドメインは、DR を使用できません。	回避方法はありません。
6527781	2つのドメイン間をDVD/DATドライブを移動するときに、cfgadmコマンドで障害が発生します。	有効な回避方法はありません。DVD/テープドライブを再構成するために、問題が検出されたドメインでreboot -r を実行してください。
6530178	DR のaddboard コマンドがハングする場合があります。問題が検出されると、それ以上のDR操作はブロックされます。復旧にはドメインのリブートが必要です。	回避方法はありません。このバグに対するパッチが入手可能かどうか確認してください。
6531036	boot net によるインストール後に、エラーメッセージ network initialization failed が繰り返し表示されます。	回避方法はありません。この不具合に対するパッチが入手可能かどうか確認してください。
6534471	通常の操作中に、システムがパニックまたはトラップすることがあります。	<ul style="list-style-type: none"> 正しい /etc/system パラメータを指定していることを確認してください。 set heaplp_use_stlb=0 パラメータを変更しても問題が解決しない場合は、この不具合に対するパッチが入手可能かどうか確認してください。

表 4 Solaris の問題と回避方法 (続き)

CR ID	説明	回避方法
6536564	I/O デバイスの障害が Solaris Fault Management Architecture で正しく診断されないために、 defect.eft.undiagnosable_problem が発生したり、または fault.io.* と診断されても別の IOU が識別されたりすることがあります。	I/O 障害により Solaris がパニックしてリブートした場合、 <code>fmddump -eV</code> を使用してエラーレポートを表示します。エラーレポートのデバイスパスは、エラーが検出された場所を示すもので、I/O 障害の切り分けに役立ちます。
6539084	Sun 製の PCIe Quad-port Gigabit Ethernet アダプター UTP カード (X4447A-Z) がリブート中にパニックすることがあります。	回避方法はありません。この不具合に対応したパッチが入手可能かどうか確認してください。
6539909	<code>boot net install</code> コマンドを使用して Solaris OS をインストールしているとき、ネットワークアクセスに次の I/O カードが使用されません。 <ul style="list-style-type: none"> • 4447A-Z/X4447A-Z, PCIe Quad-port Gigabit Ethernet Adapter UTP • 1027A-Z/X1027A-Z, PCIe Dual 10 Gigabit Ethernet Fiber XFP 	代替タイプのネットワークカードまたはオンボードのネットワークデバイスを使用し、ネットワーク経由で Solaris OS をインストールしてください。
6542632	<code>driver attach</code> が失敗すると、PCIe モジュールにメモリークが発生します。	回避方法はありません。この不具合に対応したパッチが入手可能かどうか確認してください。
6545685	電源投入自己テスト (POST) で修正可能なメモリエラー (CE) が検出された場合、ドメインは誤って 4DIMM または 8DIMM に縮退することがあります。	<code>/etc/system</code> で次のように設定し、使用されるメモリ巡回タイムアウト値を増やします。 <pre>set mc-opl:mc_max_rewrite_loop = 10000</pre>

ターゲットボードのカーネルメモリの識別

ターゲットボード (SB/XSB) にカーネルメモリがある場合、Dynamic Reconfiguration の使用は推奨しません。

1. XSCF にログインします。
2. 次のコマンドを入力します。

```
XSCF> showdevices -d domain_id
```

次の例は、showdevices -d コマンドの出力を示したもので、0 は domain_id です。

```
XSCF> showdevices -d 0

...

Memory:
-----

```

DID	XSB	board mem MB	perm mem MB	base address	domain mem MB	target XSB	deleted mem MB	remaining mem MB
00	00-0	8192	0	0x0000000000000000	24576			
00	00-2	8192	1674	0x000003c000000000	24576			
00	00-3	8192	0	0x0000034000000000	24576			

```
...
```

4 列目の perm mem MB のエントリの値がゼロ以外の場合、カーネルメモリが存在することを示します。

この例は、1674 MB のカーネルメモリが 00-2 にあることを示しています。

ボードにカーネルメモリがある場合に deleteboard コマンドまたは moveboard コマンドを実行すると、次の通知が表示されます。

```
System may be temporarily suspended, proceed? [y|n]:
```

3. ボードにカーネルメモリがある場合、n と入力して DR コマンドを中止します。

```
System may be temporarily suspended, proceed? [y|n]:n
disconnect SB5
DR operation canceled by operator.
XSCF>
```

WAN ブート サーバからのブート

WAN ブートサーバから SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバをブートできるようにするには、次の手順を実行します。

1. WAN ブートサーバに Solaris 10 11/06 OS をインストールします。
2. 本リリースから、インストールサーバ上の適切な場所に実行可能ファイル wanboot をコピーします。詳しい方法については、『*Solaris 10 Installation Guide: Network-Based Installations*』または次の URL を参照してください。

<http://docs.sun.com/app/docs/doc/817-5504/6mkv4nh65?a=view>

3. Solaris 10 11/06 OS から WAN ブート miniroot を作成します。詳しい方法については、次の URL を参照してください。

<http://docs.sun.com/app/docs/doc/817-5504/6mkv4nh63?a=view>

実行可能ファイル wanboot をアップグレードしないと、SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバは次のようなメッセージを表示して、パニックします。

```
krtld: load_exec: fail to expand cpu/$CPU
krtld: error during initial load/link phase
panic - boot: exitto64 returned from client program
```

WAN ブートの詳細については、<http://docs.sun.com/app/docs/doc/817-5504/6mkv4nh5i?a=view> を参照してください。

getflashimage の簡易版 man page

概要

```
getflashimage [-v] [[-q] -{y|n}] [-u user] [-p proxy [-t proxy_type]] url
```

```
getflashimage -l
```

```
getflashimage [[-q] -{y|n}] [-d]
```

```
getflashimage -h
```

説明

getflashimage (8) コマンドは、flashupdate (8) コマンドで使用するファームウェアイメージファイルをダウンロードします。ファームウェアの以前のイメージファイルが XSCF ユニットにある場合、そのファイルは新しいバージョンのダウンロード前に削除されます。このコマンドを実行するには、platadm 権限または fieldeng 権限を持っている必要があります。

オプションとオペランド

最も一般的に使用されるオプションとオペランドを次の表に示します。

-d	XSCF ユニットに残っている以前のファームウェアイメージファイルをすべて削除し、その後で終了します。
-l	XSCF ユニットに残っているファームウェアイメージファイルを表示し、その後で終了します。
-u <i>user</i>	認証が必要なリモートの ftp サーバまたは http サーバにログインするときのユーザー名を指定します。パスワードを入力するよう求められます。
<i>url</i>	ダウンロードするファームウェアイメージの URL を指定します。

例

コード例 1 ユーザー名とパスワードを使用するダウンロード

この例では、任意指定の -u *user* オプションを使用します。

```

XSCF> getflashimage -u jsmith \
http://imageserver/images/FFXCP1041.tar.gz
Existing versions:
      Version                Size  Date
      FFXCP1040.tar.gz      46827123  Wed Mar 14 19:11:40 2007
Warning: About to delete old versions.
Continue? [y|n]: y
Password: [not echoed]
Removing FFXCP1040.tar.gz.
      0MB received
      1MB received
      2MB received
...
      43MB received
      44MB received
      45MB received
Download successful: 46827KB at 1016.857KB/s

```

コード例2 使用可能なファームウェアイメージファイルの一覧

```

XSCF> getflashimage -l
Existing versions:
      Version                Size  Date
      FFXCP1040.tar.gz      46827123  Wed Mar 14 19:11:40 2007

```

コード例3 以前のファームウェアイメージファイルすべての削除

```

XSCF> getflashimage -d
Existing versions:
      Version                Size  Date
      FFXCP1040.tar.gz      46827123  Wed Mar 14 19:11:40 2007
Warning: About to delete old versions.
Continue? [y|n]: y
Removing FFXCP1040.tar.gz.

```

ソフトウェアドキュメントの変更予定

この項には、ドキュメントが出版された後に知られるようになった、ソフトウェアドキュメントの最新情報が記載されています。

表 5 ソフトウェアドキュメントの変更予定

ドキュメント	ページ番号	変更内容
SPARC Enterprise M4000/M5000/M8000/M9000 サーバのすべてのドキュメント		すべての DVD という表記は、CD-RW/DVD-RW に読み替えてください。
SPARC Enterprise M4000/M5000/M8000/M9000 サーバ XSCF ユーザーズガイド	9-4	XSCF Web がサポートする Web ブラウザには次のものがあります。 <ul style="list-style-type: none">• Microsoft Internet Explorer 6.0 以降• Firefox 2.0 以降• Mozilla 1.7.x 以降• Netscape Navigator 7.1 以降
ioxadm (8) man page		ioxadm (8) man page の権限の項が完全ではありません。次の記述が完全なものです。 <ul style="list-style-type: none">• platop 権限：オペランド env、list を使用できます。• platadm 権限：オペランド env、list、locator、poweroff、poweron を使用できます。• fieldeng 権限：オペランド env、list、locator、poweroff、poweron、reset、setled を使用できます。
showldap (8) man page showlookup (8) man page showcodusage (8) man page showemailreport (8) man page		showldap、showlookup、showcodusage、showemailreport のマニュアルページには、これらのコマンドが fieldeng 権限で使用できることは記載されていません。
getflashimage (8) man page		XCP 104x では、新しいコマンド getflashimage を使用できます。このコマンドは、XSCF Web に代わってファームウェアイメージのダウンロードに使用できます。 getflashimage の簡易版 man page については、 「getflashimage の簡易版 man page」 (P.15) を参照してください。

表 5 ソフトウェアドキュメントの変更予定 (続き)

ドキュメント	ページ番号	変更内容								
setaudit (8) man page showaudit (8) man page		<p>setaudit および showaudit のマニュアルページは、監査クラスに関する情報に誤りがあります。</p> <p>以下に監査クラスおよびその値を記載します。</p> <p>ACS_SYSTEM : 1 ACS_WRITE : 2 ACS_READ : 4 ACS_LOGIN : 8 ACS_AUDIT : 16 ACS_DOMAIN : 32 ACS_USER : 64 ACS_PLATFORM : 128 ACS_MODES : 256</p>								
SPARC Enterprise M4000/M5000/M8000/M9000 サーバ XSCF ユーザーズガイド	D-5	<p>「Troubleshooting XSCF and FAQ」のよくある質問 (FAQ) OS ダンプのオプションは「request」ではなく「panic」です。</p> <p>誤記：</p> <p>1. 最初に、XSCF シェルから panic オプションで reset(8) コマンドを実行します。</p>								
SPARC Enterprise M4000/M5000/M8000/M9000 サーバ XSCF リファレンスマニュアル	ioxadm(8) コマンド	<p>ioxadm(8) コマンドに必要な権限は次のとおりです。</p> <table border="0"> <tr> <td>ユーザー権限</td> <td>オペランド</td> </tr> <tr> <td>platop</td> <td>env, list</td> </tr> <tr> <td>platadm</td> <td>env, list, locator, poweroff, poweron</td> </tr> <tr> <td>fieldend</td> <td>env, list, locator, poweroff, poweron, reset, settled</td> </tr> </table> <p>ここでの訂正は、特別に断りがないかぎりマニュアルページにも適用されます。また、マニュアルページの情報よりも優先されます。</p>	ユーザー権限	オペランド	platop	env, list	platadm	env, list, locator, poweroff, poweron	fieldend	env, list, locator, poweroff, poweron, reset, settled
ユーザー権限	オペランド									
platop	env, list									
platadm	env, list, locator, poweroff, poweron									
fieldend	env, list, locator, poweroff, poweron, reset, settled									
SPARC Enterprise M4000/M5000/M8000/M9000 サーバ XSCF ユーザーズガイド		<p>IOU オンボードデバイスカード (IOUA) のホットプラグは、現時点でサポートされていません。</p>								

